



◇玉村町 三輪 弘子

「育ちと学び」No. 46の『新時代祭』の創造 伊勢崎清明高校生徒会総局の取り組み」に感動しました。表紙のあざやかなバランスボールとカラーTシャツが目が覚めるようでした。コロナ禍の沈んだ心が一瞬、ぱっと明るくなりました。

報告文を読み始めると、ワクワクして一気に読んでしまいました。

十四人が一学期何の行事もなく、学校生活に希望をなくしている全校生徒を笑顔にしたいという思いがこの行事を成功させたのでしょう。新しい行事を企画・実行し、見事に全校生徒に笑顔と楽しさを贈りました。その中で総局役員たちの成長もすばらしいものでした。

新時代祭とは「体育祭と球技大会を混ぜたもの」だそうで、これだけなら特別珍しいとは言えませんが、全校生徒からアンケートを取り、要望を取り入れて新しい競技などを創造したところが評価されたのでしょう。生徒の関心が高まるのも無理のないことです。スマホやオンラインなど使える機器をうまく使って、コロナを逆手にとってディスタンススリレールとかディスタントコントとか驚くことばかりです。

総局役員の、大変なことをさりげなくすばやくやり遂げてしまう力に感心し、それを引き出した千明先生ほか顧問の先生方の指導力を思い、深い感動を覚えました。学校行事によって生徒が変わることを改めて思いました。報告文も、全体の流れと要点をよく捉えていて写真と併せてとても読みやすかったです。

◇前橋市 大澤 由佳

封筒から取り出すと、表紙がカラーになっていてビックリ！やはりカラーだと目を引きますね。

今はなき麻屋百貨店の写真も懐かしい。いつだったか内藤先生が講師をつとめ、みなで行きましたね。

船橋先生の岩手県職員のお仕事の話、続きを楽しみにしています。

◇アメリカ・アリゾナ州 エイムズ 唯子

「育ちと学び」の初カラー版をありがとうございます。伊勢崎清明高校の新時代祭は「ピンチはチャンス」のお手本のような、とびきりの実践レポートですね。生徒さんたちのポジティブさをひき出した千明先生と多賀谷先生のやりとりのいきさつには、一時期手がけていた先生方へのインタビュを思い出しました。生徒も教師も連携力がモノをいいますね。

表紙はカラーでも、巻頭の内藤先生の戦争遺跡についての解説はいぶし銀の輝きですね。

今、クリスと映画「人間の条件」を少しずつ見ていますので、満州でも群馬でも似たような中国人労働者の非人間的な扱いがあった事実が頭の中でつながりました。

◇伊勢崎清明高校教諭 千明 俊太

生徒と「すなっぷ」を読んだ感想、というよりもまずは生徒たちの様子ですが、「私たちのやったことに本当に大人たちが関心を持つてくれていることも、自信を深めるポイントになった」と言っていました。

次に、周りの教員からの反応ですが、多賀谷さんが色々な人に紹介してくださっていて、皆さんから、「今年の生徒会は本当にすごいことをしたんだってことが、文章を読むとよくわかるね」という言葉をいただきます。今まで以上に期待されていることも生徒だけでなく私も感じています。

ただ、そこから「生徒全体の自由な表現を認めよう」という話には発展しないのは歯痒く感じます。新時代祭のようにクリエイティブな発想とクリティカル（これまでの行事のあり方に関して）な実践を通して、学校の「常識」を疑うような方向に話が持っていけたら・・・と思います。教育の変化につながるような対話を教員間でできるようにしたいという思いが強くなりました。これも、今回「すなっぷ」を作っていたので気づけたこととです。本当にありがとうございます。